

ハエの防除対策をしていますか！

暖かくなり、そろそろ畜舎ではハエが発生する時期となっています。畜産現場におけるハエの発生は、不快感や不潔感を与え畜舎近隣住民の苦情の対象になるばかりか、病原体の伝播やサシバ工類等の吸血によるストレスや生産性の低下及び安心・安産な畜産物の生産にも悪影響を与えます。したがって、ハエを的確に防除し、衛生的な畜舎環境の維持に努めましょう。



【ハエの防除対策】

① 環境対策：ハエの発生源となる環境を作らないことが重要！

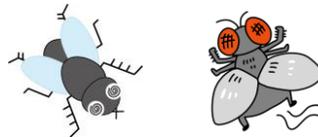
発生源となる新鮮な鶏糞、堆肥舎の発酵不良なまま堆積された糞、給水器の下、こぼれた・しめった餌等は速やかに適切に処理し、畜舎内外をこまめに清掃しましょう。特に堆肥は発酵処理に努めましょう。

② 幼虫対策：ハエは、ウジの段階で駆除するのが一番効果的。ウジ専用の殺虫剤が市販されていますので、定期的（週に2～3回）に散布しましょう。

また、少し高価ですが脱皮阻害剤（IGR 剤）も効果的です。

③ 成虫対策：通常は、誘引トラップ（ハエ取り紙、ハエ取りシート等）のような物理的な駆除や殺虫剤を使用しますが、大発生した場合は、空中噴霧で数を減らし、残留噴霧法や毒餌法が効果的です。

環境対策・幼虫対策・成虫対策の総合的な対策が必要です。



【殺虫剤の種類】

種類	特徴
有機リン系	速効性、遅効性、残効性と広く利用。残留噴霧や毒餌に使用可能。
ピレスロイド系	除虫菊製剤。速効性がありハエの大量発生時の空間噴霧に多用。残効性もある。
カーバメイト系	速効性だが、毒性はやや強い。
脱皮阻害剤等（IGR）	ウジの成長（脱皮）を阻害する薬剤でふん堆積場や畜舎の床のふんに散布すると発生を防ぎます。

【殺虫剤使用時の注意点】

●殺虫剤が効かなくなったハエに対しては、異なった種類の薬剤を使用すること。

（有機リン系、カーバメイト系薬剤で抵抗性があるものにはピレスロイド系薬剤を使用）

●用法・用量は添付の説明書をよく読んで、必ずそれに従ってください。

●殺虫剤が畜体や生産物にかからないように使用してください。殺虫剤が畜体にかかると休薬期間が必要になることがあります。

京都府丹後家畜保健衛生所 与謝郡与謝野町字下山田616

TEL：0772-43-1125（夜間・休日もつながります）FAX：43-1124